

# 酒田の生活行事

きのわさくあと  
一階城輪柵跡展

展示資料目録



塞道渡し

昭和35年1月

- 開催期間 **1982年11月4日～**  
**1983年1月30日**
- 開館時間 **9時30分～16時30分**
- 休館日 月曜日・祝日・年末年始(12/28～1/4)
- 入館料 大人**100円**・児童生徒**50円**

酒田市立資料館  
酒田市一番町8-16 TEL (24)6544

# 年中行事について

## 正月行事

年中行事の中で最も重要なもので、元日から7日までの大正月は歳神の来臨を迎えての靈魂の更新をはかり、新たな生活力を得ようとする古い信仰が根底になっている。松は今、門松として門に立てるのが普通であるが、家の中心の大黒柱や、土間に臼を伏せてその上に立てたりするのも古い習俗を示すものであろうし、この地方では門松の代りに門飾りをするところもある。歳神を祀る神棚には注連縄や松飾りの他、「鏡餅」「なで」(星川)「わに口餅」(宮野浦)などで飾り、正月料理を供え、家族一同も相餐する。

14日から16日までの小正月行事は大正月行事に比べ呪術的で「梨だんご」「稲数」「目玉餅」「まゆ玉」などで飾り鳥追いの行事など行なわれた所もあったが、今は殆ど見る事ができなくなった。

20日は20日正月といって餅をついて仕事を休むことが一般的であるが、その他飛鳥や本楯では皿灸といって皿の尻に大きな灸をすえ、神棚に供え、後家族全員頭上にかざし最後は茶の間の敷居の上に置く。1年中健康であるようにというまじないである。

## 塞道と幕見

道祖神とは中国では行路守護の神であるが、和名抄に「道祖佐倍乃加美」とあるようにサヘノカミ、サイノカミと訓ませ、塞神、幸神、妻神の文字をあてた。「塞」は遮るの意味で悪霊などの侵入を遮り防ぐ意となる。それで塞の神の信仰には境を守る、厄難除け、縁結び、和合信仰などが混淆している場合が多い。当地方の塞神は性器を模したものが多いが、小正月に子どもたちが中心になって行なうことと関連し、生殖儀礼が農業生産を促進するという類感呪術に基づくものと考えられる。塞道の幕見は酒田独特の行事で、昔小正月行事として大きな布に絵を染めぬいて各町内の板塀などに張って見せた。娯楽の少なかった頃の子どものたちの楽しみであった。

## 作祭り

2月18日海向寺で、その年の作物の豊凶や天候、災難等を占う真言密教の神つけ修法で一種の年占い。白装束に身をかため、目かくしをし手足をしばった行人が神つきとなり、神がのり移ると結跏趺

坐のまゝ10センチも飛上り、問役の質問に答え1年の作柄を告げる、特異な神秘行事。ついで「ざんげ、ざんげ」と一種独特の哀調を帯びた湯殿山法楽を唱えながら千枚梵天で参詣者の災をはらう。

#### 節句

3月、5月の節句は1ヶ月おくれの4月と6月に行なう、4月3日の雛祭りや2日から飾る。5色の菱餅を供え、昭和のはじめまでは江戸絵といって錦絵も飾った。甘酒や菓子の他、落のとうも供えた。大方の人形は土人形で豪華な人形をもっているのは親方衆、旦那衆であった。それでも子どもたちはつれだつて家々を訪れ「お雛さまをおがみに来ました」というと家々ではざしきにあげて菓子や甘酒を与えた。

6月5日は男子の節句という。普通鯉のぼりを立てて男子の健康を祝うが旦那衆になれば武者人形や武具を飾って祝う。

#### 湯立て神事の神職舞

4月14日上の日枝神社で湯立釜に湯を沸して、その音で占いをしたり、笹で湯を参詣人にそそぎかけて災を拂う神事。この後神官が片手に鈴、片手に赤飯を入れた重箱をもって重箱舞を舞う。正式名称は神職舞、舞には翁、姥、劔、弓矢、からす天狗、四足の舞などがある。下の日枝神社では4月13日に行なう。

#### 祭典

4月、5月は祭りの季節である。祭りは神霊に供侍して、それを慰め申し上げる行為であるわけだが、昔に溯るほど共同体意識を拡充、浸透させ、生命力を更新するために大切にされたことが、遺跡の発掘品などからも証明されるし、「政」の字が「マツリゴト」と読んでいたことから理解されよう。

お祭りとなれば神社や神宿に旗・幟が天高くはためく。これは祭場の標示である。神幸には3つの型があるといわれ、その1は降臨の場から祭りの場への型、2は神社から御旅所（神宿）への型、3は氏子区域内巡幸の型であるが、当地は第2の型のものが多いといえようか。神幸の行列には土地土地の特色あるものが多いが、酒田山王祭では昔から各町内から出る高い山車で名を知られたが、電線が張られるようになって姿を消した。

お祭りに競技（玉奪り、綱引き等）芸能を神事として採り入れている場合が多いが、当地方に多い神職舞や神楽は宗教的呪術的習俗をもっているものが多い。本楯の神代神楽や亀ヶ崎の獅子舞は市の無形文化財に指定されている。

#### 虫送り

虫害は古くは悪霊のわざのように考えられた。それでその形式は

全国的に共通しており、藁で人形を作って行列の中心としているものが多い。何れの場合も害虫や食物を持たせ害虫の霊に祈願して、人の世界から連れ出してもらおうとするもので、広野の場合は舟に乗せて流そうというのであろう。

### お盆

お盆は佛教の盂蘭盆の略で一般には7月13日に始まり16日までという地方が多いが、当地は1ヶ月おくれの8月である。しかし1日を地獄の口明けなどと呼んで墓地や道路の草刈掃除をしたり、庭に高灯籠を立てたり、佛具を洗ったりする所もある。またこれを7日にする所もある。宗派にもよるが盆棚を作り、茄子、胡瓜を細かく刻んで水鉢に入れ、洗米を混ぜて、みそはぎを束ねたもので水をみそぎかけて拜む。またほおずきはまなすなど赤い実を供える風も多い。精霊馬は茄子に箸で手足をつけた簡単なものもあるが普通真菰(がずぎ)で作り盆前に軒に下げ、精霊送りの時に流す。先祖の霊がお盆になると精霊馬に乗って帰ってくると考えられているからである。

火を焚いたり、灯籠を高くかゝげるのは霊が高い所から降ってくるのを迎える意味であり、海向寺の灯籠流し供養は盆の終りの日に小さな灯籠に火を点じて最上川に流す魂送りの行事である。水子供養とは生後間もなく亡くなった幼な子の魂をまつるもので淡島観音の夜会式の最後の晩に行なわれる。灯籠の数は今でも百内外とのことである。

### 港まつり

昭和4年6月24日酒田港が第2種重要港湾に指定されたのを記念して1ヶ月おくれの7月24日を川開きとして花火大会を行ったのははじまりで、すでに50年以上の歳月が流れている。戦前戦後それぞれに特色ある仮装行列を繰り広げて来たが、最近は特に花火大会も仮装行列も熱がはいる、商都酒田の明日へ向って躍進する活力を感じさせるものが多い。

### お歳夜

12月9日は大黒さまのお歳夜で、二股大根に抄豆、豆腐・<sup>ハタハタ</sup>鱈のでんがく焼を供える大黒信仰はインドの武神としてよりも中国唐代の厨房の守護する柔和な天部神としての信仰が、大黒と大国の音通から大国主命と習合し民間に浸透していったとされる。富や豊作をもたらす大黒神が一般に信仰されたのに対しえびす神は都市の商家ではえびす講といって商業神として祀る。神農さまは中国古代伝説中の帝王、三皇の1人、民に耕作を教え、百草を嘗めて医薬を作り、5弦の瑟を作ったとされる。従って薬局や漢方医が冬至の日に医薬の祖として神農さまを祀る。